

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

児童・生徒一人ひとりの自立と社会参加を実現するため、児童・生徒の人権を尊重し、それぞれの教育的ニーズに適切に対応した教育・支援を行うことを基本として、社会生活に活かせる「知識・技能」の習得、自己決定や自己判断の基礎となる「思考力・判断力・表現力」の育成、生きる喜びにつながる「学びに向かう力・人間性等」の涵養を行う「児童・生徒一人ひとりを成長させる学校」をめざす。

「アクティブ住之江」＝めざす学校像

- (1) 児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応える教育活動を展開し、児童・生徒が主体的に学び、安心して成長していける学校
- (2) 特別支援教育のセンター的機能の発揮で地域貢献できる専門性の向上・蓄積・継承を実践し、情報発信する学校
- (3) 児童・生徒の自立・自己実現、社会参加に向け、保護者や関係諸機関と連携し、実効性ある取り組みを積極的に行う開かれた学校

2 中期的目標

1 安全・安心な学校づくりの推進

- (1) 児童・生徒一人ひとりの人権を尊重し、より安全・安心な学校づくりを推進する。
- (2) 児童・生徒の安心・安全につながる防災体制をめざし、防災マニュアル等を実態に合わせて継続的に改善し、校内体制や校内環境を整備する。
- (3) 児童・生徒の健康の保持増進につながる健康教育（食育・感染症予防を含む）を推進する。

2 特別支援教育のセンター的機能の充実

- (1) 特別支援教育のセンター的機能の発揮として、地域の校園と情報共有（令和3年）・情報交換（令和4年）・実践交流（令和5年）を行い地域支援の充実につなげる。
- (2) 交流及び共同学習を推進し、居住地校との交流及び近隣地域の小学校、中学校、高等学校等との交流教育の充実を図る。

3 教育力・専門性の向上と組織的な学校運営

- (1) 「個別の教育支援計画」「シラバス改善」「授業力向上」を軸としたカリキュラム・マネジメントを推進する。
- (2) ICT機器を活用した主体的な学びにつながる効果的な学習について研究する。
- (3) 学校組織の整備を行い、効率化と機能の充実を進める。

4 自立と社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実

- (1) キャリア形成の視点で教育課程を改善し、児童・生徒一人ひとりの自立と社会参加を実現する進路指導につなげる。
高等部コース制（社会自立Ⅱ）では、2年度実施の校内検定を発展させ、3年度・4年度で検定種目の拡大、令和5年度に検定実施の確立を図る。
- (3) 児童・生徒の生きる力の育成をめざし、主体的に活躍できる場面や、多様な体験を通して学ぶ機会を効果的・効率的に持てるよう計画・実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○保護者 22 項目、教職員 39 項目でアンケート実施（肯定：A よくあてはまる、B あてはまる、否定：C あまりあてはまらない、D あてはまらない及びE わからない） 回答率は、保護者 82%、教職員 100%</p> <p>【学校の安全・環境・情報発信】 学校の安全に関する保護者向けアンケート結果は、不審者侵入防止や登下校の安全については昨年より 0.9%下がるが 91.9%の肯定回答を得ている。いじめや暴力のない学校づくりは81.0%で昨年度より 2.1%減少し、かつ、あてはまらないが 0.5%あり、引き続き細やかな個別対応が重要である。</p> <p>【教育活動等】 「個別の教育支援計画」がニーズを踏まえ作成されているかの保護者の肯定回答が 92.9%と高評価を維持。「知識技能の定着」は、肯定回答が 88.2%と昨年度の 89.7%に近い高評価で、学習内容への評価は維持できている。コロナ禍で実施できない行事があった中での「行事を楽しむ」の肯定回答については、78.5%から 73%に減少。小が 67.9%と低く、行事への見通しが持ちにくかったためと思われる。学校 HP での情報発信に対する肯定的評価は 75.8%（4.7%下降、分からないが 5.5%増加）。内容充実に努めたい。</p> <p>【進路指導等】 ・アビリンピックで行われている内容を意識した校内検定を実施。 ・「本人・保護者と連携した進路指導」への保護者の肯定評価は 85.8%と、昨年度を 5.3%上回り、進路に関する情報提供に対する肯定評価も 4.4%向上している。</p>	<p>第1回（令和3年6月） 書面による開催 令和3年度学校経営計画を承認。 ・地域支援を通じて支援先の学校との連携強化が望まれる。 ・目標の明確化を確認。</p> <p>第2回（令和3年11月24日） 学校経営計画進捗状況を確認。 <意見等> ・リモート学習に不安を抱く保護者も少なくない。外部専門家の知見を取り入れられたい。 ・ICT活用について小中学校の情報提供。 ・障害当事者であるアーティストを招聘した学習についての感想等。 ・地域活動への参加や、地域企業との協働への期待感。</p> <p>第3回（令和4年2月） 書面による開催 R3年学校評価の報告とR4年計画案の「めざす学校像」「中期的目標」の確認 <意見等> ・シラバス改善の方向性について ・コロナ対策のもと実施した交流や地域活動への評価 ・小中学部での進路指導、卒業後のフォローアップについて ・R3学校評価案の承認 ・R4計画案「めざす学校像」「中期的目標」の内容を承認</p>

府立住之江支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 安全・安心な学校づくりの推進	(1) 一人ひとりの人権を尊重した学校づくり (2) ア 児童生徒の安心感につながる防災活動の創出 イ 防災・防犯マニュアルの運用と効果的な訓練の実施 (3) 健康教育（食育・感染症予防を含む）を推進する。	(1) ・教職員の人権意識の向上のため、人権教育委員会を中心にグループワークを含めた人権研修を実施する。 (2) ア・児童・生徒が避難経路を確認しながら避難訓練を実施。 イ・消防署、警察署と連携し避難訓練・防犯訓練の充実を図る。 (3) ・保健だよりや給食だよりを定期発行し、健康教育に関する情報の周知を図る。 ・「学校保健計画」に基づき取り組みを行い、健康教育の充実を図る。	(1) ・自己評価保護者向「いじめや暴力のない学校づくり」への肯定評価80%以上を維持する。[83.1%] (H30は74.5%、R1は84.3%) (2) ア・半数以上の児童生徒が避難経路が分かる。 イ・消防署と連携した避難訓練実施 ・警察署と連携した防犯訓練実施 (3) ・たよりを年10回以上発行する。 ・保護者向け学校教育自己診断における健康についての興味を持たせるように努めているかの肯定回答率90%以上を維持。[92.3%] (H30は91.5%、R1は92.4%)	(1) ・部落問題（外部講師）、共に学ぶ教育、デートDV研修でグループワーク実施。 自己評価肯定回答 81% (○) (2) (○) ア 5月学級から避難7' 07" 12月授業から避難6' 33" イ 消防署による指導講評実現 防犯訓練（教員）は校内 (3) ・毎月発行しタイムリーな情報発信に努めた。校内掲示を学校ブログで紹介。 ・校内放送で感染症対策の自作ビデオ放送。校医の歯磨き指導実施。自己診断肯定回答は93.4%。(◎)
2 センター的機能の充実	(1) 地域におけるセンター的機能の充実 (2) 交流及び共同学習、体験学習の推進と交流教育の充実	(1) ・本校の個別の教育支援計画（A ² ）を支援先校園に提供し、実態把握のベースを共通化する。 (2) ・小中学部で居住地校交流を実施する。 ・各学部で近隣校との交流教育を計画し、相手校と十分に打合せを行い、活動内容の充実を図る。 ・地域と連携し、活動内容を充実させる。	(1) ・支援先5校園以上でA ² 活用研修を実施。 (2) ・居住地校交流実施3回以上実施。(R1は3回、R2は中止) ・近隣校との交流教育を各学部で年1回以上、全学部で6回以上実施する。(R1は6回、R2は中止) ・本校児童生徒が地域活動に参加する機会を維持し内容充実を図る。(R1は種花運動、イチゴ狩り、伝承遊び、音楽祭、アートビート、マラソン、施設訪問の7回 R2は中止)	(1) ・通学区の6園、7小、4中より夏季研修参加。対象生徒在籍校の支援力向上につながった。(◎) (2) コロナの影響大 ・居住地校交流2件実施。 ・近隣校交流：ビデオ交流を小1回、中1回実施。高中止(一) ・実施できた地域活動は、種花運動、植え付け作業(近隣企業との交流)、アートビート、定期的な清掃活動(◎)
3 教育力・専門性向上と学校組織の整備	(1) 「個別の教育支援計画」「シラバス改善」「授業力向上」を軸としたカリキュラム・マネージメントを推進する。 (2) ICT機器を活用した主体的な学びにつながる効果的な学習について研究する (3) 学校組織の整備と機能の充実	(1) ・「新個別の教育支援計画活用」「シラバス改善に向けた学部検討」「アクティブラーニングを意識した授業改善に向けた教科会」を計画的に実施する。 (2) 1人一台端末を効果的に活用した授業実践に研究的に取り組む。 (3) ・首席ごとのミッション「カリキュラムマネージメント」「教育環境整備・地域連携」「キャリア教育充実」を学校組織で進める。 ・校務分掌等の業務分担の整理に努め、勤務時間外在庁時間抑制につなげる。	(1) ・カリキュラムマネージメントの取組状況を学校HPで3回以上報告する。 ・自己診断保護者向け「学習内容は子どもに合っている」肯定回答80%以上[79%] (H30は78.1%、R1は76.2%) (2) ・各学部2事例以上の校内実践報告を行う。 ・先進事例について伝達講習を行う。 (3) ・校内組織を活かしミッションを遂行し、前期で進捗報告、後期で成果報告をHP公開。 ・ひと月の勤務時間外の在庁時間45時間以上の教職員数をR2年度と同程度とする。	(1) カリマネ推進委員会を定期開催。進捗のHP掲載は1回。 個支計ツールを掲載(個別の教育支援計画A ² 、使用方法、様式説明)(△) 自己診断肯定回答は78.7%(△) (2) 研究授業でICT機器活用を含んだ事例は6。利用の有効性は深められなかった。事例紹介は(△) (3) ・児童生徒活動に反映としてブログ掲載(○) ・分掌内の業務整理実施。45時間超の数が毎月で前年より増加。(△)
4 自立と社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実	(1) キャリア形成を図り進路指導を充実させる (2) 児童・生徒の生きる力の育成	(1) ・高等部コース制社会自立II「サービス」で検定を実施する。 ・コース制授業で検定種目拡大について検討する。 ・進路先の情報を保護者が得られるよう説明会・見学会開催に努める。 ・進路希望調査等により保護者・本人の希望を十分に把握し、現場実習を行い、進路に繋げる。 ・現場実習や進路懇談等の取り組み内容や時期を検討し、より効果的な進路指導を行い、生徒の適性に合った進路選択の実現をめざす。 (2) ・児童生徒会活動等の活性化を図り、全校集会や校内展示に積極的に関わる等、児童・生徒がより主体的に活躍できる機会とする。 ・各行事の充実を図るとともに、児童・生徒の実態を十分考慮した社会体験や校外活動等を計画・実施する。	(1) ・アビリンピック大会と同等の検定を実施。 ・検討状況をコース制委員会で報告する。 ・事業所合同説明会開催。見学会2回以上開催。 ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、本人・保護者と連携した進路指導に努めている」の肯定回答率80%以上を維持。[80.5%] (H30は78.7%、R1は75.6%) ・適切な進路決定、就職希望者の就労。 (2) ・毎月1回、中学部・高等部の生徒を対象とした児童生徒会や各種委員会の活動を活性化し、委員会での活動内容を全校集会で報告できている。展示や映像で児童生徒の作品や主体的な活動が情報発信されている。 ・保護者向け学校教育自己診断における子どもは、運動会・学習発表会などの行事を楽しみにしているの肯定回答率75%以上を維持。[78.5%] (H30は75.2%、R1は73.8%)	(1) ・喫茶サービス、清掃(ビルメンテ)種目で校内検定実施。(○) ・コース制委員会報告。(○) ・合同説明会は中止したが、各区の事業所情報を発信。見学会1カ所実施。コロナの影響大(一) ・自己診断肯定回答85.5%(○) ・高3生徒の就職希望者全員就職。(10名)(◎) (2) ・生徒会選挙、全校集会を児童生徒会組織を中心に実施できた。学習発表会等で活躍の場面があった。アートビートで代表生徒が作品販売や活動の様子を展示できた(◎) ・自己診断肯定回答は73%(△) (小67.9%、中71.2%、高77.1%)